

ちよつといし話

～ 良き畑に良き種を蒔く～

明治天皇の御製に「まつりごと よこしまならぬ国にこそさかしき人も多くいでけれ」と、この御製訓は明治45年に「国」と言う題で発表されたものです。よこしまならぬ国とは明るくて正しい政治が行われる国であり、そう言う国にはさかしき人、ようするに賢人が多くでますよ。と、明治天皇自身が治めた実践哲学の結論として、お詠みになられた和歌だと想います。現代では立派な公約も膏藁程の効き目も無く、国民も情報に麻痺して、さほど不快感を感じなくなっていました。平成十六年三月に入り、佐藤観樹氏の秘書給与問題が浮上するなど、国政はもとより、県や市政に至るまで、議員バッチが裏街道を正々堂々と活躍しております。情けない事です。

この様な状態で賢人が多く育つはずがありません。国政の乱れが家庭の相続、血統等「まつり」へも悪影響を及ぼし、先祖の正しい供養も出来にくくなってまいりました。如何にしたら三世の希望に添えるのか、当山では思い悩みましたが、解決するには環境を整備する事から進める必要があります。第一に「良き畑に良き種を蒔く、」事です。人間を始め動植物全てに当てはまる事ですが、よりよい種族を残す為の努力こそ必要であり、最大の目標となる事でしょう。所願成就の為に精進しましょう。… 煌 煌

善入院油掛地藏尊